

076 江戸時代

商品流通の展開

江戸…「將軍のお膝元」

あ 100万都市(参勤交代で武士50万)
武士の消費生活を支える町人もそれだけ必要

江戸の人口比…武士50%：町人50%
江戸の面積比…武家地80：町人地20

い 浅草お蔵 (幕府の米蔵)

→俵禄米は旗本・御家人に年4回支給

う 丸差 …旗本・御家人が受け取る
俵禄米を委託販売する商人

大坂 大坂の人口比…武士0.3%：町人40%

あ “天下の台所”

い 諸藩が 蔵屋敷 を置き、
年貢米などの 蔵物 を売却
して必要な現金(現銀)を得る。

大坂周辺は、米作ではなく 綿花 などの商品作物栽培が
さかんな先進地帯です。綿作農家は米は自給せず買って
食べます。年貢も買った米で納めます。→諸大名としては
年貢米を大坂に持っていけば必ず換金できます。

う 蔵物の「販売」を藩から委託
された商人 蔵元

え 蔵物の「会計」を藩から委託
された商人 掛屋
※蔵元と掛屋は同じ商人が兼ねることも多かった

お 納屋物 (民間の特産物)
も活発に取引

京都

あ 朝廷が存在← 京都所司代 が監視

い 古代以来の高い手工業技術
西陣織、友禅染、京焼など。
西陣織を手描きで染める染色法

古代の南海道(四国・紀伊)とよく区別しよう
南海路 (菱垣廻船・樽廻船)

あ 江戸100万人もの必要物資は、先進地
の上方から海上輸送して供給された。

船の積み荷は、沈没しそうに上の荷物から捨てる。
船の積み荷を、菱垣廻船業者が「沈没しそうだったので
海に全部棄てやした」とウソついて横領する場合も。
船底にオノで穴を開けて「船底をこすってしまって穴が
空いて、積み荷が全部海へ」とウソついた例も。

廻船問屋の不正や海難事故に対して各業界団
体(仲間)が一致団結して結成したのが、

江戸の 十組問屋

大坂の 二十四組問屋

あ 輸送中の積み荷の損害は共同保険

い 団結力で廻船業者の不正を予防

う のちに、十組から 酒問屋 が脱退
独自に 樽廻船 を立ち上げた

大坂の 堂島 米市場。米は 先物 取引。



船で運んできた米俵が描かれているから蔵屋敷です。



〈蔵屋敷(『摂津名所図解』)〉

〈国立国会図書館蔵〉

江戸 日本橋 魚市場…築地→豊洲に移転
神田 青物市場…運河 神田川 で運ぶ

大坂 雑喉場 魚市場…海沿い。
天満 青物市場…淀川沿い。

